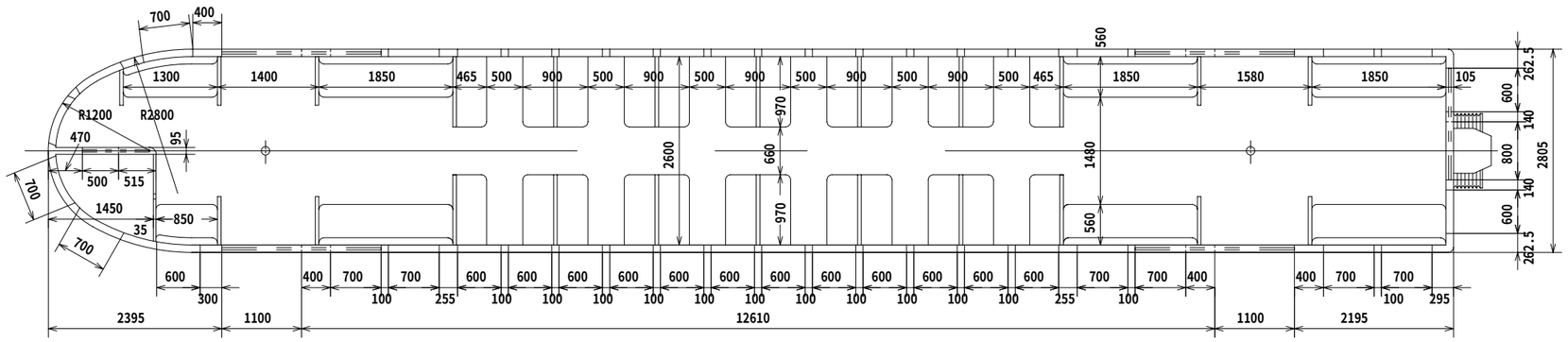
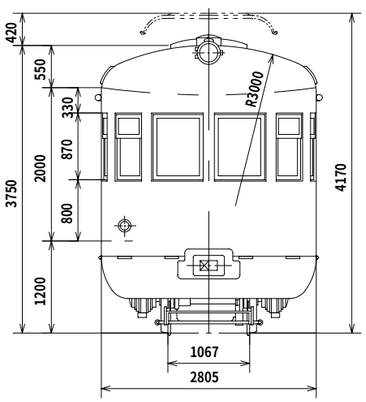
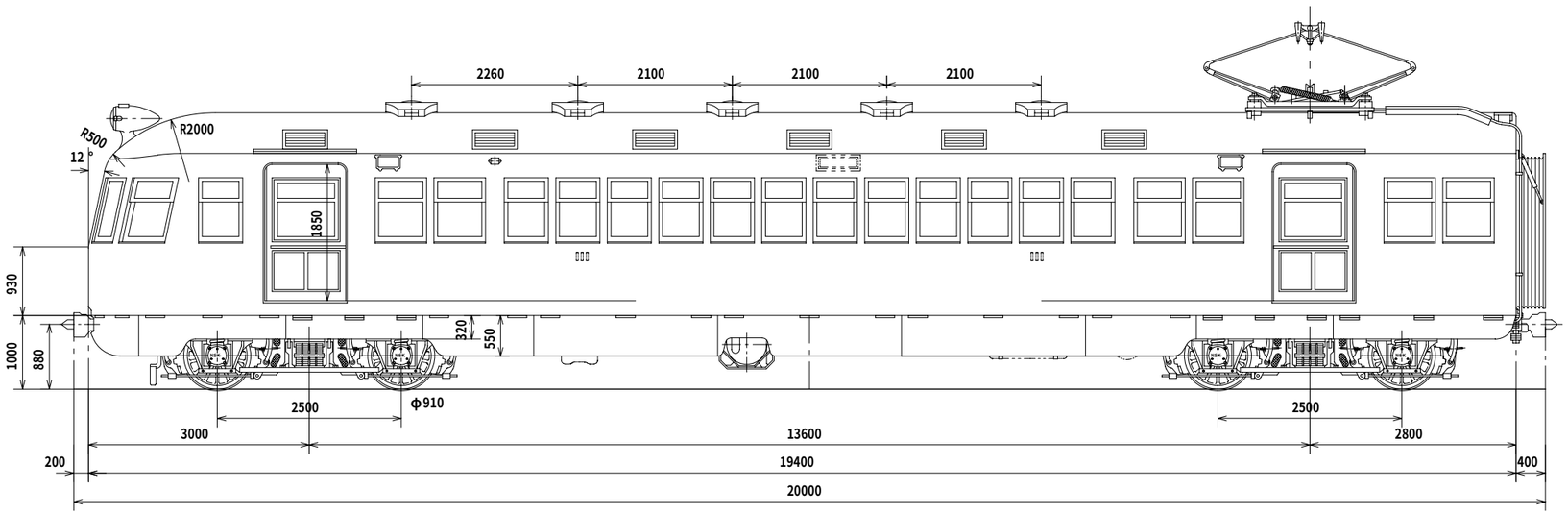
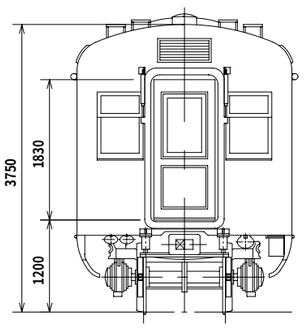
国鉄　モハ52型　形式図(中間車サロハ66，サハ48は別図)

1936年、京阪神間の急行用として就役した国鉄最初の流線型電車
モハ42系の改装型ともいえるが、当時流行の流線型車体を採用して一躍人気者になった
両端にモハ52、中間にはサロハ46(のち66)、サハ48をはさんだ4両編成で、翌年にはこれを広窓にかえた第二次型が2編成出現
当初はマルーン一色の車体であったが第二次出現と共にクリームとマルーンの塗り分けに変更
図はその頃の姿。晩年は阪和線から飯田線へと転籍